

## 第6章 国際交流分野の点検・評価

### 1. 対象事業

#### (1)国際交流分野における主要な事業

分野別目標1 国際理解を育む機会づくり		アカデミー計画	実施計画事業	重点施策
1	地域連携活動事業	○	○	
2	国際理解教育の推進	○	○	
3	国際交流フェスタ	○	○	
4	英語観光ガイド	○	○	
5	JETプログラムを活用したCIRの導入			○
6	ドイツ料理の日・ホスタウン給食キャラバン～			○
7	文京クリスマスマーケット2019			○
8	文の京再発見with国際交流員 ドイツの言葉と文化に触れる～			○
9	姉妹都市等との交流	○	○	
10	海外都市との交流の活性化	○		
11	ホームステイ生徒交換事業	○	○	
12	区内大学、ボランティア団体等との協働・連携	○	○	
13	生涯学習講座での国際理解推進	○		
分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり				
14	文京区紹介映像多言語版の公開	○		
15	外国人の日常生活支援のための多言語化	○		
16	通訳クラウドサービス活用による外国人相談等	○		
17	図書館における外国語の新聞・雑誌の提供	○		
18	配布物の多言語化(スポーツ振興課)	○		
19	配布物の多言語化(リサイクル清掃課)	○		
20	わかりやすいホームページの構築	○		
21	わかりやすいまちの表示	○		
22	防災対策での多言語対応	○		

#### (2)分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 国際理解を育む機会づくり	13事業	3事業
【分野別目標2】 外国人が快適に過ごせる環境づくり	9事業	4事業

## 2. 主要な事業の成果に対する評価

### (1)分野別目標1 国際理解を育む機会づくり

#### 前年度の課題と今後の対応・方向

##### ①事業目的の明確化

各事業の目的が抽象的であり、ターゲットを絞り込めていないため、事業の効果を判断することが難しい。事業に参加する外国人のニーズを把握する必要がある。

##### ②子どもたちが海外経験を積む機会の創出

姉妹都市であるドイツ・カイザースラウテルン市とのホームステイ事業は、応募人数も多く、区民の関心も高いが、ドイツ側の受け入れ先が限られるなど、事業の拡大が難しい状況である。そのため、ドイツ以外の国でも、子どもたちが海外経験を積むことができるよう、多角的な視点による検討が必要である。

また、多文化共生社会に対応できる人材を育成するため、国際交流フェスタ等の事業において、小中学生が外国人とコミュニケーションを図る機会の提供を検討する必要がある。

##### ③新たな情報発信方法の導入

外国人の参加率が低い事業については、情報が十分に行き届いていない可能性も考えられるため、外国人がよく利用するメディアで情報発信するなど、低コストで導入できる方法を検討する必要がある。

#### 【取組状況の評価】

##### ①事業目的の明確化

国際交流フェスタは、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催直前で中止となったが、実行委員会においてテーマの明確化に向けた検討が行われたことは評価できる。

《関連事業 3》

##### ②子どもたちが海外経験を積む機会の創出

文京クリスマスマーケットで実施した、姉妹都市ドイツ・カイザースラウテルン市に関するスタンプラリーでは、多くの子どもたちが楽しくカイザースラウテルン市について知ることができ、海外への興味・関心につながっている。

《関連事業 1》

#### 【課題と今後の対応・方向】

##### (1)交流の機会の拡充

英語観光ツアーは、開始から10年以上が経過し参加人数が減少傾向にあるため、区内在住・在学の外国人に対してアンケートを実施し、ニーズや実施方法等を検討する必要がある。

国際交流フェスタは、新型コロナウイルス感染症により、接触を伴う体験・交流等の実施が難しい状況であるため、オンラインでの交流事業の実施等、区内でも海外の文化に触れることのできる機会を提供する必要がある。

また、文京区は外国人住民に占める留学生の割合が高いため、イベント情報を留学生受入施設、日本語学校や大学等と連携した交流事業を実施することで、交流の機会の充実を図りたい。

## (2)海外都市との交流の活性化

新型コロナウイルス感染症の影響で、海外都市訪問団の受入れやホームステイ生徒の受入れが中止となるなど、海外都市との交流が困難な状況であるため、人の移動を伴わない交流事業の充実が必要である。

## (3)国際理解に向けた情報の収集・発信・共有

近年、外国人への情報発信や外国人との新しいコミュニケーションのツールとして「やさしい日本語」が普及しつつある。日本人と外国人の交流を促進させる手段として、行政による「やさしい日本語」での情報発信や「やさしい日本語」を使った留学生と交流事業等の実施を通して、区民へ浸透させていくことが必要である。

### 【参考事業】

#### ■事業1 地域連携活動事業

事業概要		
地域の行事や団体と連携して、外国人の方が日本の文化体験や日本人との交流を通じて、日本人や日本文化を理解できる環境づくりを行う。		
事業実施内容	事業実績	
文京クリスマスマーケットにおける姉妹都市スタンプラリー 実施日：令和元年12月14日(土) 参加者数:約500人	当初予定数	—
	実績数(※)	500人(—)(—)
	申込数	—
成果	課題	
姉妹都市スタンプラリーの実施を通して、カイザーラウテルン市を多くの区民に知っていただくだけでなく、カイザーラウテルン市に関するチラシも配布することで、これまでの交流の経緯等も広く周知できた。	外国人の興味は多様であり、今後は外国人の興味・関心等に合った内容を検討する必要がある。	
	<b>課題解決に向けた取組</b> 国際交流事業における参加者アンケート等を参考に、外国人の興味・関心等を把握し、適した事業を展開していく。	

実績数(※)欄には、左から、令和元年度500人、(平成30年度0人)、(平成29年度0人)を記載  
以下同じ

### ■事業3 国際交流フェスタ

事業概要		
日本人と外国人が、日本や世界各国の様々な文化が体験できる、国際交流フェスタを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
第14回文京区国際交流フェスタは、令和2年2月29日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	当初予定数	—
	実績数	— (1,100人) (1,200人)
	申込数	—
成果	課題	
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	来場者数が近年減少傾向にあるため、ニーズを的確に捉えた改善策を検討する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いた場合の実施方法について、検討していく必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	従来開催していた2月下旬から3月上旬の時期は、留学生が出国する時期に当たるため、今後は実施時期を変更する。また、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いた場合は、WEBを活用した国際交流フェスタを開催する。	

## (2)分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり

### 前年度の課題と今後の対応・方向(要点)

#### ①外国人住民に対するサービスの向上

外国人住民が日常生活において何に困っているのかを把握し、適切な支援を行う必要がある。文京区では、英中韓の翻訳に取り組んでいるが、今後、「やさしい日本語」を用いて情報を発信するとともに、区が「やさしい日本語」を習得する機会を提供する必要がある。

### 【取組状況の評価】

#### ①外国人住民に対するサービスの向上

多言語化サポート事業は、庁内各部署が作成する行政文書の翻訳を実施することで、外国人住民の利便性、窓口業務の円滑化に役立っている。

《関連事業 15》

## 【課題と今後の対応・方向】

### (1) 区の資源を活用した、歴史文化等への理解の推進

文京区紹介映像の多言語版(英語・中国語・韓国語)を区ホームページにて公開しているほか、区公式PR動画の字幕版(英語・中国語・韓国語)を公式YouTubeチャンネルで公開している。区内外の方に見てもらおう機会を増やすため、積極的に広報を行っていく必要がある。

### (2) 外国人の生活・滞在に対する支援

行政文書等の多言語化においては、英語、中国語、韓国語だけでなく、フランス語、ベトナム語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語にも対応しており評価できるが、今後は「やさしい日本語」の活用も検討が必要である。

## 【参考事業】

### ■事業15 外国人の日常生活支援のための多言語化

事業概要		
外国人住民の日常生活に必要な行政文書の多言語化を行う。		
事業実施内容	事業実績	
庁内各課が作成する行政文書等を多言語化する。 税務課：特別区民税・都民税/軽自動車税 証明書交付申請書 高齢福祉課：「こんにちは高齢者あんしん相談センターです」 国保年金課：督促状 管理課：自転車保管所案内ほか みどり公園課：肥後細川庭園リーフレットほか 教育総務課：PTAとは 学務課：運動器健診保健調査票ほか 児童青少年課：育成室のご案内ほか	当初予定数	—
	実績数	16文書(26文書)(13文書)
	申込数	—
成果	課題	
庁内各部署が作成する行政文書の翻訳を実施することで、外国人住民の利便性に資するとともに、窓口業務の円滑化に役立っている。	納期については、これまで当課で一律に設定していたが、各課からの要望に応じ、一部納期を早めることや、現在対応している言語(英・中・韓)以外の外国語等にも対応していく必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	国立国語研究所が実施した、定住外国人が理解できる言語の調査では、「英語」よりも「日本語」であることが示されており、本区においても区民や区職員に対し、「やさしい日本語」の周知・習得を行っていく。 また、本区在住外国人の国籍は、中国、韓国、米国の外にベトナムやミャンマー等東南アジア各国が多いため、これらの言語への翻訳対応も進めていく。	

### 3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

---

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

観光・交流分科会座長 山田 徹雄

①分野別目標1 国際理解を育む機会づくり

②分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり

③分野の総評